



●成虫(開張¹⁾約13mm)



●幼虫(体長約8mm)



●食害されたフェルト

蛾のなかには、幼虫が動物性の繊維に被害を与える種類があります。イガ(衣蛾)やコイガ(小衣蛾)です。

形態と被害

成虫は小さな蛾で、翅の開張¹⁾は13mmほどです。光沢のある薄い黄色をしており、翅には紋がありません。

幼虫は成長すると体長8mmくらいの、白く細長いイモムシ状になります。

幼虫が毛織物や毛糸、羽毛などを食害し、穴をあけます。被害を受けた布などの上に繊維や糞をつづりあわせて、トンネル状の通路をつくるのが特徴です。

コイガによく似たイガという種類もあり、加害のようすはコイガと同じです。成虫の翅は光沢のある灰色で黒点があり、幼虫が繊維や糞をつづった巣²⁾を背負って歩く、などが違う点です。

なお、毛織物などの被害はイガやコイガよりも、ヒメマルカツオブシムシの方が多くみられます。

防除

洋服ダンスなどの中で蛾が何匹も見つかったら、念のために衣類を調べ陽に干してください。ウール製品や毛糸は、防虫剤を入れて密閉した袋などに収納するのがいちばん良い方法です。

¹⁾ 翅を左右いっぱい開いた時の翅の先から先までの幅

²⁾ ミノムシのように筒状に作った巣